

県内全42市町村がホームタウン! ぎふに元気を届ける「ホームタウン活動」

FC岐阜はクラブ発足以来、Jリーグの中でもトップクラスの活動回数を誇り、積極的に地域貢献活動（ホームタウン活動）を行っています。スタジアムの外でも多くの人々に元気を届ける活動に取り組んでいます。

2022シーズンは新型コロナウイルス感染拡大によって、イベントの中止や人との接触を伴う活動の制限はありましたが、しっかりとした感染対策のもと、様々な活動に積極的に取り組んでいます。



社会連携活動（シャレン!）

社会課題や共通のテーマ（教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など）に、地域の人・企業や団体（営利、非営利を問わず）・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して、取り組む活動の総称。Jリーグ全体でホームタウン活動の質をより高めていくために推進している活動です。

〈FC岐阜の取り組み事例：ソナエル東海〉

東海地区の6つのJクラブ（清水エスパルス、ジュビロ磐田、藤枝MYFC、アスルクラロ沼津、名古屋グランパス、FC岐阜）が防災をテーマに合同で取り組むプロジェクト

南海トラフ地震をはじめとしたあらゆる災害に対して「備えるを、たのしもう。」をコンセプトに、地域を中心とした多様な連携先と共に、防災意識を高め、具体的な行動の喚起へと繋がっていくことを目指します。今後は6クラブ合同での企画も実施予定です。



①県内各地でのサッカー教室や幼稚園や保育園の巡回サッカー教室など、サッカーを通じて運動の楽しさを伝えています。②FC岐阜スタッフによる健康体操教室キャラバン、体を動かし笑顔になることで免疫力アップにつなげています。③ピアサポート事業。障がいのある方がホームゲーム運営に携わることで自立支援等に繋がる取り組みを行っています。④各地のイベントを盛り上げるアトラクション。小さな子供から大人でも参加できるキックターゲットは大人気のアトラクションです。⑤子供たちのバランス感覚を養うアスレチックトレーニングです。特に小さい子供たちに大人気⑥SDGsの達成に向けて、FC岐阜はこれからもホームタウン活動に取り組んでいきます。

2022シーズン活動実績

【ホームタウン活動回数推移】



2022シーズン
実施回数 **484回**

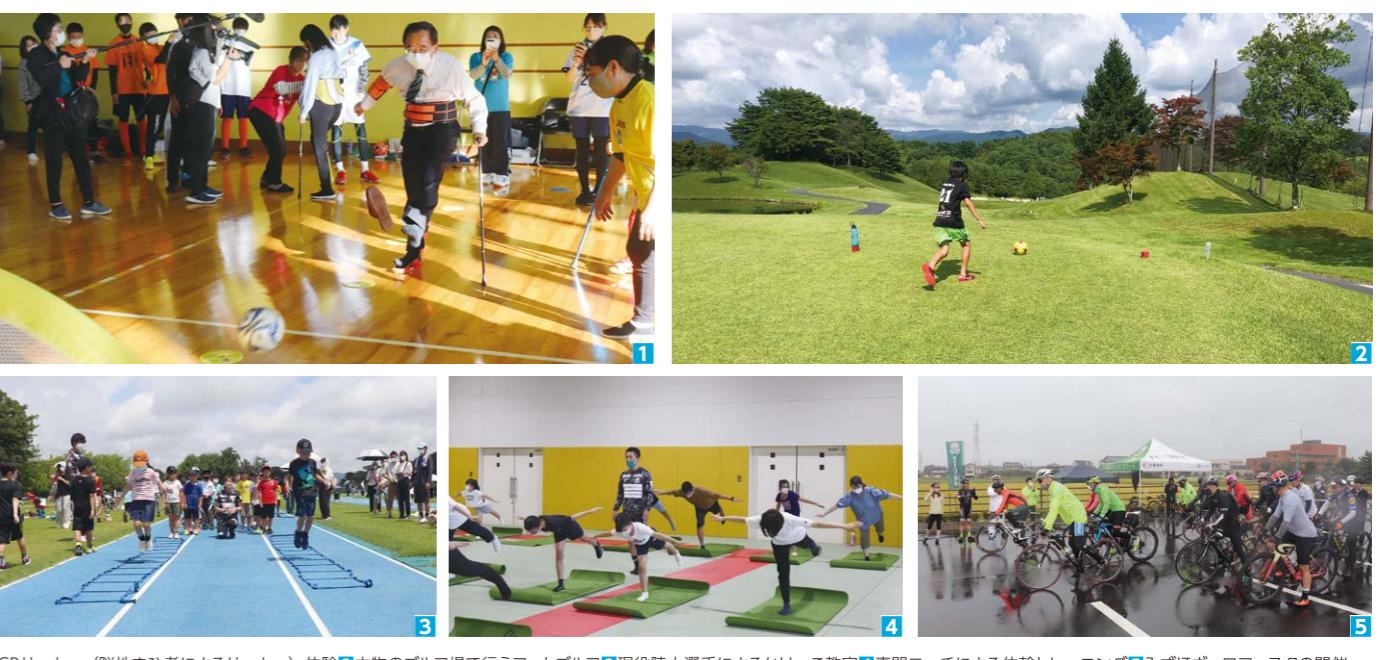
2022シーズン
参加人数（延べ）**30,975人**

新型コロナ感染拡大により活動回数減少
(2020～22)

様々なスポーツ活動の取組み

FC岐阜は、サッカーはもちろん、サッカー以外の様々な分野のスポーツにおいても積極的に取り組みを実施しており、地域の人々と連携して活動を行っています。

以下に示す取り組みは、FC岐阜が行っているスポーツ活動の一部に過ぎませんが、これからも、地域の人々が笑顔になるよう積極的に様々なスポーツ活動を実施して参ります。



①CPサッカー（脳性まひ者によるサッカー）体験②本物のゴルフ場で行うフットゴルフ③現役陸上選手によるかけっこ教室④専門コーチによる体幹トレーニング⑤みずほヴェロフェスタの開催